



クラスタへの Cisco Nexus Dashboard Data Broker ソフトウェアの導入

リリース 3.10.1 から、Cisco Nexus Data Broker (NDB) の名前は、Cisco Nexus Dashboard Data Brokerに変更されました。ただし、GUIおよびインストールフォルダ構造と対応させるため、一部のNDBのインスタンスがこのドキュメントには残されています。NDB/Nexus Data Broker/Nexus Dashboard Data Brokerという記述は、相互に交換可能なものとして用いられています。

この章には、次の詳細が含まれています。

- [Cisco Nexus Dashboard Data Broker クラスタのインストール \(1 ページ\)](#)
- [Cisco Nexus Dashboard Data Broker クラスタのアップグレード \(3 ページ\)](#)
- [HA クラスタ化コントローラの TLS が有効になっているアプリケーションソフトウェアのアップグレード \(6 ページ\)](#)

Cisco Nexus Dashboard Data Broker クラスタのインストール

Cisco Nexus Dashboard Data Broker (NDDB) クラスタをインストールするには、次の手順に従います。

始める前に

前提条件：

- Cisco Nexus Dashboard Data Broker (NDDB) は、3 ノードクラスタをサポートします。
- すべての IP アドレスは、到達可能で、相互に通信する必要があります。
- クラスタ内のすべてのスイッチは、すべてのコントローラに接続する必要があります。
- すべてのコントローラは、同じ HA クラスタリング設定情報を config.ini ファイルに持つ必要があります。

- クラスタを形成するには、すべての NDDB インスタンスが同じ NDDB バージョンである必要があります。
- クラスタ パスワードを使用する場合、すべてのコントローラは同じパスワードを **ndbjgroups.xml** ファイルに設定する必要があります。**HA** クラスタのパスワード保護セッション（*Cisco Nexus Dashboard Data Broker Configuration Guide*）を参照してください。



(注) クラスタを形成するすべての NDDB インスタンスは、同じ NDDB バージョンである必要があります。

手順

- ステップ 1** Web ブラウザで、www.cisco.com に移動します。
- ステップ 2** 下方向へスクロールして、**[ダウンロード（Downloads）]** をクリックします。
- ステップ 3** **[製品の検索（Select a Product）]** 検索ボックスに「*Nexus Dashboard Data Broker*」と入力すると、最新リリースの**[ソフトウェア ダウンロード（Software Download）]** 画面が自動的に表示されます。
リリース 3.10.4 のファイル情報：Cisco Nexus Data Broker ソフトウェア アプリケーション：
`ndb1000-sw-app-k9-3.10.4.zip` が表示されます。
- ステップ 4** Cisco Nexus Data Broker アプリケーションバンドルをダウンロードします。入力を求められたら、Cisco.com のユーザー名およびパスワードを入力して、ログインします。
- ステップ 5** Data Broker をインストールする予定の Linux マシンにディレクトリを作成します。
たとえば、ホーム ディレクトリに、`CiscoNDB` を作成します。
- ステップ 6** 作成した NDDB ディレクトリに Cisco Nexus Data Broker の zip ファイルをコピーします。
- ステップ 7** Data Broker の zip ファイルを解凍します。
Data Broker ソフトウェアが `ndb` というディレクトリにインストールされます。ディレクトリには、次の内容が含まれます。
 - `runndb.sh` ファイル：NDDB を起動するためのファイル。
 - `version.properties` ファイル：NDDB ビルドバージョン。
 - 構成ディレクトリ：NDDB 初期化ファイルが含まれています。このディレクトリには、構成が保存されている `startup` サブディレクトリが含まれます。
 - `bin` ディレクトリ：共通 CLI を含む NDDB ファイルが含まれています。
 - `etc` ディレクトリ：プロファイル情報が含まれています。
 - `lib` ディレクトリ：NDDB Java ライブラリが含まれています。
 - `logs` ディレクトリ：NDDB ログが含まれています。

(注)

logs ディレクトリは、NDDDB アプリケーションの起動後に作成されます。

- plugins ディレクトリ : NDDDB プラグインが含まれるディレクトリ。
- work ディレクトリ : Web サーバーの作業ディレクトリ。

ステップ 8 ソフトウェアをインストールしたときに作成された `ndb/configuration` ディレクトリに移動します。

ステップ 9 任意のテキスト エディタを使用して `config.ini` ファイルを開き、次のテキストを見つけます。

```
# HA Clustering configuration (semi-colon-separated IP addresses of all controllers that are part
of the cluster.)
# supernodes=<ip1>;<ip2>;<ip3>
```

```
If a standby node is available:
#supernodes=<ip1>;<ip2>;<ip3>;<ip4>-standby
```

ステップ 10 スーパーノードで構成される行のコメントを外し、`<ip*>` を NDDDB サーバーの IP で置き換えます。

```
IPv4 example:
# HA Clustering configuration (semi-colon-separated IP addresses of all controllers that are part
of the cluster.)
supernodes=10.1.1.1;10.2.1.1;10.3.1.1
```

```
IPv6 example:
# HA Clustering configuration (semi-colon-separated IP addresses of all controllers that are part
of the cluster.)
supernodes=2001:22:11::1;2001:33::44::1;2001:55:66::1
```

ステップ 11 ファイルを保存し、エディタを終了します。

ステップ 12 NDDDB がインストールされているすべての Linux マシンで、手順 5 から 11 を繰り返します。

ステップ 13 `./runndb.sh -start` コマンドを使用して、プライマリ NDDDB サーバーを起動します。

ステップ 14 プライマリ NDDDB サーバーの GUI が起動したら、`./runndb.sh -start` コマンドを使用して他の NDDDB サーバーを起動します。

プライマリが起動したら、GUI に表示される確認メッセージを待ってから、クラスタのメンバーを起動します。表示されるメッセージには、プライマリの準備ができており、メンバーを起動しますという意味のメッセージが表示されます。

Cisco Nexus Dashboard Data Broker クラスタのアップグレード

始める前に

前提条件 :

- Cisco Nexus Dashboard Data Broker (NDDDB) は、3 ノード クラスタをサポートします。

- すべての IP アドレスは、到達可能で、相互に通信する必要があります。
- クラスタ内のすべてのスイッチは、すべてのコントローラに接続する必要があります。
- すべてのコントローラは、同じ HA クラスタリング設定情報を `config.ini` ファイルに持つ必要があります。
- クラスタを形成するには、すべての Nexus Dashboard Data Broker インスタンスが同じ Nexus Dashboard Data Broker バージョンである必要があります。
- クラスタ パスワードを使用する場合、すべてのコントローラは同じパスワードを **ndbjgroups.xml** ファイルに設定する必要があります。 *Password Protecting for HA Clusters* のセクション（Cisco Nexus Data Broker Configuration Guide）を参照してください。



(注) クラスタを形成するすべての Nexus Dashboard Data Broker インスタンスは、同じ Cisco Nexus Dashboard Data Broker バージョンである必要があります。

手順

- ステップ 1 Cisco Nexus Dashboard Data Broker プライマリ サーバーにログインします。
- ステップ 2 [管理 (Administration)] > [バックアップ/復元 (Administration)] に移動します。
- ステップ 3 [ローカルでバックアップ (Backup Locally)] をクリックして、構成ファイルをダウンロードします。
- ステップ 4 **runxnc.xh -stop** コマンドを使用して、すべての Cisco Nexus Dashboard Data Broker インスタンスを停止します。
- ステップ 5 NDDB サーバーと NDDB デバイスの間で TLS 証明書が有効になっている場合は、`/xnc/configuration` の `tlsTrustStore` および `tlsKeyStore` ファイルのバックアップを作成します。
- ステップ 6 すべての NDDB クラスタ インスタンスで前の手順を実行します。
- ステップ 7 Web ブラウザで、www.cisco.com に移動します。
- ステップ 8 [サポート (Support)] > [製品 (Products)] > [ダウンロード (Downloads)] に移動します。
- ステップ 9 製品とダウンロードの検索ボックスに「Nexus Data Broker」と入力し、検索応答リストから「ダウンロード (Downloads)」をクリックします。
リリース 3.10.4 のファイル情報：Cisco Nexus Dashboard Data Broker ソフトウェア アプリケーション：
`ndb1000-sw-app-k9-3.10.4.zip` が表示されます。
- ステップ 10 Cisco Nexus Dashboard Data Broker のアプリケーションバンドルをダウンロードします。入力を求められたら、Cisco.com のユーザー名およびパスワードを入力して、ログインします。
- ステップ 11 Cisco Nexus Dashboard Data Broker をインストールする予定の Linux マシンにディレクトリを構築します。
たとえば、ホーム ディレクトリに Cisco Nexus Dashboard Data Broker を構築します。
- ステップ 12 Cisco Nexus Dashboard Data Broker の zip ファイルを、構築したディレクトリにコピーします。
- ステップ 13 Cisco Nexus Dashboard Data Broker の zip ファイルを解凍します。

Cisco Nexus Dashboard Data Broker ソフトウェアは、`ndb` というディレクトリにインストールされます。ディレクトリには、次の内容が含まれます。

- `runndb.sh` ファイル：NDDB を起動するためのファイル。
- `version.properties` ファイル：NDDB ビルドバージョン。
- 構成ディレクトリ：NDDB 初期化ファイルが含まれています。このディレクトリには、構成が保存されている `startup` サブディレクトリが含まれます。
- `bin` ディレクトリ：NDDB 共通 CLI を含む NDDB ファイルが含まれています。
- `etc` ディレクトリ：プロファイル情報が含まれています。
- `lib` ディレクトリ：NDDB Java ライブラリが含まれています。
- `logs` ディレクトリ：NDDB ログが含まれています。

(注)

`logs` ディレクトリは、NDDB アプリケーションの起動後に作成されます。

- `plugins` ディレクトリ：NDDB プラグインが含まれるディレクトリ。
- `work` ディレクトリ：Web サーバーの作業ディレクトリ。

ステップ 14 ソフトウェアをインストールしたときに作成された `ndb/configuration` ディレクトリに移動します。

ステップ 15 任意のテキスト エディタを使用して `config.ini` ファイルを開き、次のテキストを見つけます。

ステップ 16 次のテキストを探します。

```
# HA Clustering configuration (semi-colon-separated IP addresses of all controllers that are part
of the cluster.)
# supernodes=<ip1>;<ip2>;<ip3>
```

```
If a standby node is available:
#supernodes=<ip1>;<ip2>;<ip3>;<ip4>-standby
```

ステップ 17 スーパーノードで構成される行のコメントを外し、`<ip*>` を NDDB サーバーの IP で置き換えます。

IPv4 example:

```
# HA Clustering configuration (semi-colon-separated IP addresses of all controllers that are part
of the cluster.)
supernodes=10.1.1.1;10.2.1.1;10.3.1.1
```

IPv6 example:

```
# HA Clustering configuration (semi-colon-separated IP addresses of all controllers that are part
of the cluster.)
supernodes=2001:22:11::1;2001:33::44::1;2001:55:66::1
```

ステップ 18 ファイルを保存し、エディタを終了します。

ステップ 19 NDDB がインストールされているすべての Linux マシンで、手順 7 ~ 18 を繰り返します。

ステップ 20 `./runndb.sh -start` コマンドを使用して、プライマリ NDDB サーバーを起動します。

ステップ 21 プライマリ NDDB サーバーの GUI が起動したら、`./runndb.sh -start` コマンドを使用して他の NDDB サーバーを起動します。

ステップ 22 プライマリ サーバーの NDDB GUI にログインします。

ステップ 23 [管理 (Administration)] > [バックアップ/復元 (Backup/Restore)] > [アクション (Actions)] > [ローカルで復元 (Restore Locally)] に移動し、以前にダウンロードした構成をアップロードします。

ステップ 24 `./runndb.sh -stop` コマンドを使用して、クラスタ内の NDDB のすべてのインスタンスを停止します。

ステップ 25 NDDB サーバーと NDDB スイッチの間で TLS 証明書が有効になっている場合は、手順 5 でバックアップした `tls TrustStore` および `tlSKeyStore` ファイルを、すべての NDDB インスタンスの `ndb/configuration` にコピーします。

ステップ 26 `./runndb.sh -start` コマンドを使用して、プライマリ NDDB サーバーを起動します。

TLS 証明書が有効になっている場合は、以下のコマンドを使用して NDDB サーバーを起動します。

```
./runndb.sh -tls -tlskeystore ./configuration/tlsKeyStore -tlstruststore
./configuration/tlsTrustStore
bin/ndb config-keystore-passwords --user <NDB_username> --password <NDB_password> --url
https://<Cluster_NDB_IP>:8443 --verbose --prompt --keystore-password <keystore-password>
--truststore-password <truststore-password>
```

プライマリが起動したら、GUI に表示される確認メッセージを待ってから、クラスタのメンバーを起動します。表示されるメッセージには、プライマリの準備ができており、メンバーを起動しますという意味のメッセージが表示されます。

ステップ 27 `./runndb.sh -start` コマンドを使用して、メンバー NDDB サーバーを起動します。

TLS 証明書が有効になっている場合は、以下のコマンドを使用して NDDB サーバーを起動します。

```
./runndb.sh -tls -tlskeystore ./configuration/tlsKeyStore -tlstruststore
./configuration/tlsTrustStore
bin/ndb config-keystore-passwords --user <NDB_username> --password <NDB_password> --url
https://<Cluster_NDB_IP>:8443 --verbose --prompt --keystore-password <keystore-password>
--truststore-password <truststore-password>
```

HA クラスタ化コントローラの TLS が有効になっているアプリケーション ソフトウェアのアップグレード

HA クラスタ化コントローラで TLS 証明書が有効になっている場合に、GUI を使用して Nexus Dashboard Data Broker (NDDB) アプリケーション ソフトウェアを集中モードでアップグレードするには、次の手順に従います。

手順

ステップ 1 `https://server IP:8443` にアクセスして、既存の NDDB GUI インスタンスにログインします。

ステップ 2 [管理 (Administration)] > [バックアップ/復元 (Administration)] タブに移動します。

ステップ 3 [ローカルでバックアップ (Backup Locally)] をクリックして、構成を zip ファイルとしてダウンロードします。

ステップ 4 `./runndb.sh -stop` コマンドを使用して、現在の NDDB インスタンスを停止します。

- ステップ 5** NDDB インスタンスが停止したら、`/ndb/configuration` フォルダに移動し、`tlsTrustStore` および `tlsKeyStore` ファイルを `local/common` フォルダにコピーします。
- ステップ 6** 標準の *Cisco.com* のダウンロードページから NDDB 3.10.4 ソフトウェアをダウンロードし、`config.ini` ファイルの「supernodes」構成を使用してクラスタモードを設定し、すべてのコントローラで `./runndb.sh -start` コマンドを使用して新しい NDDB 3.10.4 クラスタを起動します。。
- ステップ 7** プライマリコントローラで、**[管理 (Administration)] > [バックアップ/復元 (Backup/Restore)]** タブに移動します。
- ステップ 8** **[ローカルに復元 (Restore Locally)]** をクリックして、先ほどダウンロードした設定ファイル（上記のステップ 3）をアップロードします。
- 設定が正常にアップロードされると、GUI に成功メッセージが表示されます。
- ステップ 9** `tlsTrustStore` および `tlsKeyStore` ファイルを NDDB 3.10.4 の `/ndb/configuration` フォルダにコピーします（手順 5 で `local/common` フォルダにコピーしたもの）。
- ステップ 10** `./runndb.sh -stop` コマンドを使用して、すべてのコントローラで NDDB 3.10.4 インスタンスを停止します。
- ステップ 11** `./runndb.sh -tls -tlskeystore ./configuration/tlsKeyStore -tlstruststore ./configuration/tlsTrustStore` コマンドを使用して、プライマリ コントローラで NDDB インスタンスを開始します。
- 数分待ちます。準備完了 (*ready*) メッセージが表示されます。
- ステップ 12** `./runndb.sh -tls -tlskeystore ./configuration/tlsKeyStore -tlstruststore ./configuration/tlsTrustStore` コマンドを使用して、クラスタの他のコントローラで NDDB インスタンスを起動します。
- 他のコントローラでインスタンスを開始する場合、（TLS キーワードを使用して）コマンド全体を再入力する必要はありません。標準の `./runndb.sh -start` を使用できます。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。